

「くにさき学」開学に向けて

市では、多くの方に愛される地域学を目指して「くにさき学」開学の準備を進めてきました。昨年より有識者による「くにさき学研究・検討委員会」を開催し、今回「くにさき学」に関する提言がまとまりましたので、その概要をお知らせします。なお、「くにさき学」は副読本の作成から始まります。

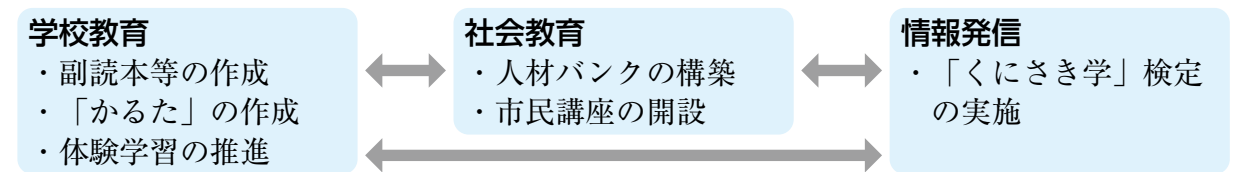


くにさき学研究・検討委員の皆さん

くにさき学の目的

- ① 国東の歴史や文化、自然環境および産業を学ぶことで国東の伝統、風土などの地域の財産を次代に受け継いで行く。
- ② 「くにさき学」を通じて地域課題の解決に取り組むとともに持続可能な地域社会を実現する。
- ③ 「くにさき学」を通じて国東の価値・魅力を国内外に情報発信する。

くにさき学の展開



くにさき学が取り扱う分野

歴史、偉人・芸術、自然・くらし・環境、民俗・祭り、産業、世界農業遺産

【問合せ先】文化財課 ☎0978-72-2677

図書館

あれこれボックス

司書のイチオシ

『1分脳活 脳が10歳若返る!』 白澤 卓二/著

脳の衰えを感じ始めたあなたに、1分でできる「脳活」を、イラストをまじえて紹介しています。本や新聞の「音読」は、脳を活性化させるなど、毎日の生活習慣にとりいれてみませんか? いろいろな手立てが紹介されています。

【ありがとうございます!】

● 5月26日 「国見町のみかんさん」から、くにさき図書館に「一般と児童の本を購入してほしい」とのご希望で100万円のご寄付をいただきました。貴重な浄財、大変ありがたく、活用させていただきます。

● 6月3日 大分県教職員組合国東支部の岡原由紀様から「子どもが集う図書館のイベントなどで使用してください」とマスク150枚をいただきました。この時期、貴重なマスク、有効に使わせていただきます。



【行事中止のお知らせ】

夏季休業中に、くにさき図書館・安岐図書館の図書館まつりを毎年、行っていますが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止します。

【問合せ先】 国見図書館 ☎0978-82-1585 武蔵図書館 ☎0978-69-0946
くにさき図書館 ☎0978-72-3500 安岐図書館 ☎0978-67-3551

市長日記 vol.110

『グミの実の熟れる頃』

国東市長 三河 明史

梅雨明けを思わせる強い日差しの下、黄金色によく熟れた麦畑を、大型のコンバインが力強く進んでいきます。三反もある麦畑は、見る見るうちに刈り取られていきます。今年には雨が少ないので麦の出来は良いでしょう。それにしても「早い!」。農作業の早さは60年以上前の私が子どもだった頃とは、隔世の感があります。

当時はコンバインなど無く、牛馬で耕し、手作業で刈り取る農作業でした。面積が一反もあると、刈れども刈れども反対側に行き着きません。腰を伸ばそうものなら「子どもにも腰があるか」と言われたものです。

当時、麦は平鎌で、稲は鋸鎌で刈り取りました。それぞれ刈り取る植物に併せて使い分けていたのでしょう。鋸鎌は良く切れました。祖母は、稲刈りの最中に左手の小指を切り落としましたし、私の左手の小指にも切傷のあとが今も残っています。刈り取った麦は、そのまま田んぼに綺麗に並べ、暫く干すのです。数日干して乾燥させると、束ねて馬の背中やリヤカーに満載して、自宅の軒先に積み上げていきます。全部集めると坪庭に発動機と脱穀機を運び込み脱穀するのです。父や祖父が発動機の弾み車を力一杯回すと「タン、タン、タン」

と軽快な音を出しながら回りだし、それに脱穀機をベルトでつなぐと、「ガーガー」と動き始めるのです。

私も山のように積んだ麦の束を、機械に押し込んでいる父や祖父のところに運んだり、袋に一杯になった麦を別の軒下に運んだり、子どもにも色々な仕事がありました。

そうしているうちに埃や麦の破片などが機械からどんどん吹き出され、大人も子どもも皆真っ白になって懸命に働いたものでした。

ところで私の坪庭の東の端には、一本のグミの木があったのですが、この「麦じの」頃には実が真っ赤に熟れて、口に入れると甘酸っぱい味がしてとても美味しいのです。脱穀が終わると埃だらけになったグミの実を摘んで水で洗い、よく食べたものです。どこの家にもあったグミの木は、もう今ではほとんど見かけなくなりました。

また、地面に落ちた麦の殻を拾い、良く「蛍かご」を編みました。麦の殻を組み併せて編んでいくと、縦長の螺旋形にねじれた籠が出来ます。文字通りこの頃舞い始める蛍を捕まえて入れたり、グミの実を入れたり、やはりこの頃熟れ始める木苺などの野苺を摘んで入れたりしたものです。編み方はもう忘れたように思います。当時の子どもたちは、色々な遊びを工夫したものです。

昔の農作業は機械が少なく、家族総出で大変だったように思いますが、合間に楽しいことも沢山ありました。

今年の麦が豊作であることを祈ります。



100万円の匿名寄付をいただきました

5月29日に、国見総合支所に設置している「市長への意見箱」を開けたところ、100万円の現金が入っていました。封筒には「市民の皆様へ使って下さい」と書かれており、市では、匿名の寄付として取り扱うこととしました。

三河 明史 市長

100万円もの寄付をいただき、大変ありがたく思っています。本来であればお会いして直接お礼を申し上げるべきところですが、それも叶いませんので、この場を借りてお礼申し上げます。貴重な浄財は、新型コロナウイルス対策などに使わせていただきます。誠にありがとうございました。